

飛騨高山で働くことに対する看護大学生への意識調査 ～高山市の企画による福祉・医療研修に参加した体験から～

松原 薫（岐阜協立大学看護学部）
臼田 成之（岐阜協立大学看護学部）
奥村 太志（岐阜協立大学看護学部）
北村 美恵子（岐阜協立大学看護学部）
水上 和典（岐阜協立大学看護学部）
遠渡 絹代（岐阜協立大学看護学部）
長谷川 真子（岐阜協立大学看護学部）
神谷 真有美（岐阜協立大学看護学部）
緒方 京（岐阜協立大学看護学部）

キーワード：飛騨高山，地域包括ケア，地域連携，人材確保，看護大学生

I. はじめに

わが国は国民全体の少子高齢化が急ピッチで進んできており、近年はさまざまな産業分野で現役世代が減少し、深刻な人手不足に陥っている。これは福祉・医療分野も同様であり、2040年度における就業者数は96万人不足することが見込まれている¹⁾。岐阜県においては、飛騨圏域が広大な面積を抱え、ここでの福祉・医療分野の人材確保は喫緊の課題となっており、岐阜県内の病院では、医師・看護師の確保が困難なため、病棟を閉鎖するところまで出てきている。また看護職の地域偏在について、県全体の看護職員の供給数は増加している一方で、高齢化や過疎化が進行する飛騨圏域では、人口10万人あたりの看護職員数が岐阜県内の圏域別では多い方であるが、一人当たりが受けもつ面積は都市部に比べて大きく、活動効率など課題が多い²⁾。高山市の高齢化では、2023年において国の高齢化率29.1%に対して33.6%と高く³⁾、2045年には44.3%を予測されている⁴⁾。さらに、高山市は看護職員自身の高齢化や市人口が2045年時点で2020年より3割減少のうえ、生産年齢人口（15～64歳）が8%減少することも推計で明らかにされていることから⁵⁾、少ない働き手で多くの高齢者を支える人口構造が見込まれており喫緊の課題である。このような現状の中、国は高齢化対策の一つとして在宅医療を推進しており⁶⁾、医療・介護のサービスが包括的かつ継続的に提供されることが重要である。そのためには、在宅医療を提供する病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどの福祉・医療機関や、そこに従事する医療関係者などの確保や連携が必要となる。

文部科学省は大学への進学者数の将来推計について、18歳人口が減少し続ける中でも大学進学率は一貫して上昇して大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測している⁷⁾。本学の特色として、岐阜県下の高等学校からの入学生が43.8%と多く⁸⁾、そのうち飛騨圏域からも複数名が入学しており、看護に関連する課題について飛騨圏域との連携を模索している。そのような中、飛騨圏域で働く臨床家たちが、高山市における地域福祉・医療の取組みと課題の周知を目指して、本学の看護大学生（以

下、学生)を教育研修に招いてくれた。研修を終えた学生たちは口々に「得難い貴重な体験でした」と報告している。そこで、高山市が企画した福祉・看護研修において学生が何を学び、どのような将来展望を抱いたかを明らかにし、今後の連携について検討した。

II. 目的

高山市が企画した福祉・看護研修から得た学生の学びや将来展望を明らかにし、今後の連携について検討する。

III. 用語の定義

飛騨圏域：岐阜県が地域医療構想で示す構想区域（二次医療圏）で指定した「高山市、飛騨市、下呂市、白川村」⁹⁾とする。

IV. 研修の概要

1. 研修前オリエンテーション

研修前に参加を希望した学生を対象に、高山市が企画した研修の開催目的について資料（図1）を提示してオリエンテーションを実施した。研修では、急速な少子高齢化にある飛騨圏域において就業者数が減少して人材不足にある現状を示したうえで、U・Iターンによる移住等の促進により介護事業所への就労につなげ、持続可能なまちづくりの実現を目的に研修を実施することなどを説明した。

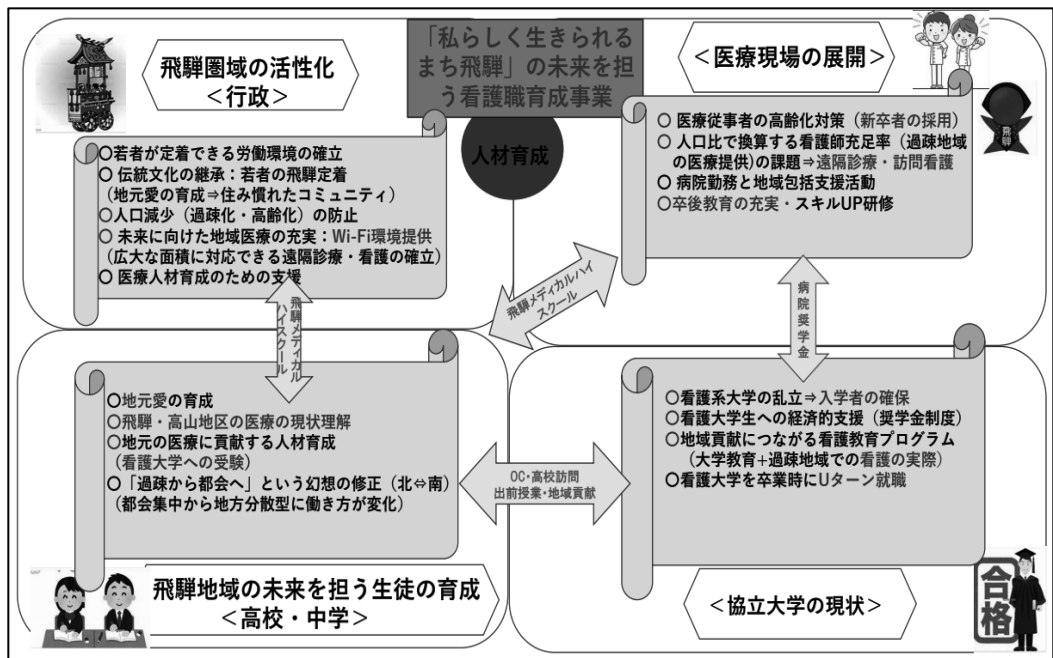


図1 「私らしく生きられるまち飛騨」の未来を担う看護職育成事業

表1 福祉分野における医療・介護職を目指す看護大学生への研修行程

	時間	研修内容・講師
1日目	13:30～15:00	研修① 久美愛厚生病院の取組み～地域の中核病院として～ 講師：久美愛厚生病院緩和ケアセンター 看護部長
	15:15～16:45	研修② 介護—医療連携について 講師：高山赤十字病院 病院長
2日目	9:15～10:45	研修③ 介護保険サービスと在宅介護の取組み～介護支援専門員の役割～ 講師：一般社団法人高山市福祉サービス公社 訪問事業課長、居宅介護支援係長
	11:00～12:30	研修④ 『看護を創造しよう』～地域医療、看護・介護について～ 講師：公益財団法人日本訪問看護財団 訪問看護認定・特定看護師
	13:30～15:00	研修⑤ 地域医療・在宅介護について 講師：丹生川診療所 医師
	15:15～16:45	研修⑥ 丹生川苑特別養護老人ホームにおける介護保険サービスと在宅支援の取組み 講師：丹生川苑特別養護老人ホーム 施設長
3日目	9:30～11:30	懇親会 参加者：講師6名、学生8名、教員1名、高山市職員3名、 飛騨高山大学連携センター職員3名 計21名 高山市古い町並み散策(観光ガイド同行)

2. 高山市内での研修

研修は、表1の行程で高山市内において2泊3日で実施した。研修1・2日目は、高山市における福祉・医療の現状や取組み等について高山市内の福祉・医療機関の施設長や看護部長らの講義を座学で受けた。研修2日目夜は高山市内の観光ホテルで開催した懇親会に参加し、学生と現地関係者が交流した。研修3日目は観光ガイドの同行のうえ高山市内を散策し、高山市の文化に触れた。

V. 研究方法

1. 研究対象者

高山市（飛騨高山大学連携センター）が企画した研修に参加希望した看護学部の学生11名（1年生5名、3年生6名／うち飛騨圏域出身の学生1名）。

2. データ収集方法

調査は研修前オリエンテーション、研修1・2日目終了後、研修1週間後の計3回実施した。研修前は「オリエンテーションに参加して印象に残ったことや考えたこと」についてオリエンテーション終了後にアンケート調査を実施した。研修1・2日目終了後は、「研修に参加して一番印象に残ったことや楽しかったこと、受講してどのような考えや意識を抱いたか、その理由について」をインタビュー調査およびアンケート調査を実施した。研修1週間後は「研修に参加した現在の気持ちや考え」についてアンケート調査を実施した。

3. データ収集期間

2023年7月～2023年8月

4. 分析方法

アンケートの内容は、質的・帰納的に整理して得られたコードを意味内容の類似性に沿って、サブカテゴリー、カテゴリー化した。インタビューの内容は、メモを基に逐語録を作成し、その内容を類似性に基づき分類しサブカテゴリー、カテゴリー化し今後の課題を検討した。

5. 分析結果の厳密性

研究対象者が語った内容について、的確に捉えられているか複数の研究者間で相互に確認し合いながら、解釈に偏りのないよう、分析の厳密性の確保に努めた。

6. 倫理的配慮

本研修は学生の自由意思で参加し、前提として学生は体験をインタビュー・アンケートで情報として提供することを同意のうえ参加した。研究対象者に調査の目的、方法、承諾の任意性、個人情報の保護、匿名性の保持、不利益はないこと、結果は学会や論文集で公表するが個人が特定されないことなど文書および口頭で説明し、同意書の署名をもって研究の同意を確認した。本研究は岐阜協立大学研究倫理委員会で承認を得て実施した（承認番号 EA-2023-002）。

VI. 結果

1. 研修参加者

研修参加希望者 11 人全員が事前オリエンテーションに参加したが、個人の事情により 1 年生 3 人が研修の参加を辞退し、研修に 8 人が参加した。

2. 調査結果

学生より得た情報は、カテゴリー【 】, サブカテゴリー〔 〕、コード「 」(斜字)で示す。

1) 研修前オリエンテーション

研修前のオリエンテーションで印象に残ったことや考えたことについて 8 つのサブカテゴリーと 3 つのカテゴリーが抽出された。(表 2-1、表 2-2)

研修前オリエンテーションでは、【高山市の施策】や【高山市の現状】について印象に残り、【高山市の施策】では、福祉・医療・保健における〔取組の現状〕や〔若者世代の育成〕について知ることができていた。オリエンテーションに参加する中で、高山市の取組みについて関心を高めて、就職を考えたい気持ちが芽生える一方で、〔奨学金制度への関心〕〔就業条件への関心〕など、自分の住居外である高山市で働くことに対する不安があること、働きやすい環境や高い給与が必要と考えていることがうかがえた。【高山市の現状】では、〔高齢化が進む高山の地域医療〕への関心を持つと同時に、深刻な高齢化の中、地域で連携し助け合う〔高山文化への関心〕を示していた。【高山研修への関心】では、今回は講義のみの行程であることを説明すると〔体験型研修の要望〕が多く、〔研修で学ぶ姿勢の醸成〕を図り研修への関心を高めていた。

2) 研修 1 日目・2 日目終了後

研修 1 日目に参加した後に、印象に残ったことや考えたことについて 10 のサブカテゴリーと 5 つ

の 카테고리、研修 2 日目参加終了後では 10 のサブカテゴリと 6 つの 카테고리がそれぞれ抽出された。（研修 1 日目：表 3-1・表 3-2、研修 2 日目：表 4-1・表 4-2）

【研修の意義】では、〔研修による理解の促進〕〔地域医療に魅力を持つ〕〔健康管理に関する意識の高まり〕に加え、研修 2 日目は地域医療について、介護保険サービスと在宅介護を中心とした内容であり、〔在宅での看取りに心動く〕〔在宅ケア・地域医療に魅力をもつ〕が抽出された。【高山市の保健・医療・福祉の取り組み】では、〔高齢者の状態に応じた援助の工夫〕〔地域の実情に応じた社会資源の発展〕に加え、2 日目の研修後には地域連携の実際について学び〔高山市の地域医療の促進〕が図られていることや、その必要性を実感していた。【高山市の保健・医療・福祉の課題】では、〔地域の実情と課題〕〔人出不足の現状と課題〕について、地域格差が大きく提供できるサービスには限界があることを知り、研修 2 日目では介護現場の実際を聞くことで、特に在宅介護における〔介護負担の大きい家族への支援〕の重要性を学んでいた。【地域包括ケアシステム】では、過疎地における〔ICT の利活用〕〔多機関・多職種との連携・協働による地域包括ケアシステム〕の重要性に加え、研修 2 日目では地域医療において〔地域の特性に応じた支援〕〔対象の望みや思いを理解する〕ことの重要性を実感していた。【学生のキャリア形成】では、〔将来への目標や展望の明確化〕となり〔キャリア形成に影響をうける〕が抽出された。

3) 研修 1 週間後

研修 1 週間後における研修に参加した今の気持ちについて、13 のサブカテゴリと 5 つの カテゴリが抽出された。（表 5-1、表 5-2）

【研修の意義】では、〔高齢化が進む高山市の先駆的な地域医療〕に〔高山市の地域医療の魅力〕を感じ、〔医療・介護への姿勢の感銘〕をした。また、〔地域医療の視点の広がり〕を図るなかで、〔学修と研修の結び付け〕を図ることができた。【高山市の保健・医療・福祉の課題】では、「山間部にある高山市は、医療が都会より遅れて十分に行き届いていないイメージをもっていた」とする〔高山市への医療の遅れの先入観〕を内省する一方で、高山市は少子高齢化の現状の中で都市部より高い医療技術を持つとする〔少子高齢化が進む高山市の地域医療の魅力と課題〕を明確にすることができた。【地域包括ケアシステム】では、地域と医療が密な関係が図られていたり、早期から地域包括ケアシステムの体制づくりに取り組んでいる〔高山市の魅力を引き出す地域包括ケアシステム〕に関心が向けられていた。また、〔多機関多職種連携で相互理解で高め合う地域包括ケアシステム〕では、特に医療職と地域が、他職種と連携し合いながら取り組むところなどに魅了していた。【学生のキャリア形成】では、〔高山市への就業の関心の高まり〕を感じ、研修後には高山市で働くことに興味をもち、将来の選択肢の 1 つに入れることができていた。また、〔将来への目標や展望の明確化〕を図ることができ、「研修に参加して自分が住む地域以外にも目を向けて、保健師としての将来像を深く考えたい」と将来設計を立てることができた学生もいた。【研修への要望】では、多くの学生より〔施設見学の要望〕があった。また、〔研修の魅力を高めるための要望〕として、役職以外の話や看護学生以外の医療に携わる学生との研修を希望する意見があった。

表 2-1 研修前オリエンテーションに参加して印象に残ったことや考えたこと(1)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
高山市の 施策	取り組みの現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な医療職の人材不足が想定されるので、高山市は新卒看護師が来てもらいたいことが分かった ・もともと高山出身の人が地元で働くことは良いことなので、早い段階から意識化してもらえるようにしていくことが重要である ・どのような企画をすれば、看護新卒者や高校生の興味を引けるか考えるきっかけとなった ・飛騨の医療行政と看護大学の連携が必要だと分かった ・将来保健師として働きたいので、訪問看護など地域に関する政策や医療に興味がある ・都会への憧れは誰に言われても変わらないので、どうやって変えるのか気になった ・若い世代の人材確保のために高山市が取り組んでいる政策について知りたい
	若者世代の育 成	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の意識改革をどのように行うか気になる（メディカルハイスクールなどの実際） ・地元愛の育成も難しいと思ったので、どう育成していくのか気になった ・高山市は若手の育成に力を入れていることが分かった
	奨学金制度へ の関心	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の制度作りは必要だと思う。高山で働く人が増えると考える。 ・病院の奨学金も、看護学生になってからではなく、高校生の時点で高山市内で働いてくれる人が奨学金を利用ができると良い ・就職先の奨学金などが心配 ・奨学金制度についてよく分からないので知りたい
	就業条件への 関心	<ul style="list-style-type: none"> ・病院や施設についての情報が不足している ・他の地域から高山市に移住して働くとするとな不安も大きいので、そのサポートが必要になる ・人口比では看護師は充足されているので、求人倍率は高いのではないかと、就職が難しいのではないかと ・高山市は魅力的だが、就職して看護師として住み続けるとなると、今の生活圏を離れるには決断がいる。その決断のためには、働きやすい環境や給料などが良いことが必要 ・地域医療に関心を持ち高山市への就職も考えていきたい ・若者が少ない状況で、高齢者の対応はどうなっているのか
高山市の 現状	高齢化が進む 高山市の地域 医療	<ul style="list-style-type: none"> ・高山地域では、医療従事者の高齢化や若い人材が減少傾向にあるが、その現状に至った理由や、その背景を知りたい ・人口比からすれば、看護人材は増えているが、実際は高山市内に集中して、過疎地は深刻な状況にある ・高山市の人材不足が深刻だということを感じた ・高山市の看護師不足と少子高齢化の深刻さが理解できた ・高齢化の加速によって、高山市は坂道が多いので傾斜を歩くときはどうしているか ・飛騨のような広大な地域で、過疎地を抱え、将来的な、医療人材の不足が深刻な状況は理解した ・自分は看護学生だが、地域医療の過疎化に気づきづらい ・地域で働いている人から地域住民との関わりで大切にしていることや価値観について学びたい ・高山市の現状を知り、高度医療よりも地域医療を考えていきたい
	高山文化への 関心	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市の伝統など詳しく知らないなので、この研修を機会に知りたい ・観光や文化など地域の魅力などの紹介していただくと興味が湧く ・高山市はどのような街並みだろう、伝統文化とは、若者の興味を引く街なのか関心を持った

表 2-2 研修前オリエンテーションに参加して印象に残ったことや考えたこと (2)

高山研修への関心	研修で学ぶ姿勢の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨だけでなく、自分の地元でも今回の研修で学んだことを生かせるようにしたい ・今回の研修で学んだことを看護師になったときに活かせるようにしたい ・この研修で、地域医療の魅力、高山市の魅力を学んで、この魅力をさまざまな人に伝え、地域を活性化したい ・歴史のある地域であり、その周囲の期待もあると考えられるので、この研修が少しでも成果につながるように積極的に取り組みたい ・協立大学と協働した本研修のプロジェクト内容を聞き、今回の研修に臨む姿勢、思いが強くなった ・高山市の中でも、人口差（過疎化と集中）があり二分しているこの状況で、少しでも質の高い医療を提供するために行っていることについて実際に学びたい ・緩和ケアや在宅の取り組みにとっても興味があり、楽しみです。過疎地の支援体制についても学びたい ・施設などの福祉や医療の連携について知りたい ・「都会だから良いわけではない」ということは理解できたが、実感が湧かないので、現地で働いている人の話を直接聞けるのが楽しみ
	体験型研修の要望	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は施設見学ができないのが残念 ・実際に見学出来たら具体的に想像できる ・話を聞くだけでなく、実際に現場を歩き、経験話を聞きたい ・高山市の医療施設や地域の人々のかかわりに興味があり、現地で見学がしたかったので、少し残念 ・研修は講義ばかりでなく体験もしたい

表 3-1 研修 1 日目で印象に残ったことや考えたこと (1)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
研修の意義	研修による理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加し、直接話を聞くことで知識が増えた ・在宅支援はさまざまな取り組みをしながら暮らしと医療をつなげていることがわかった ・在宅支援は在宅で療養生活を送れるよう地域で支えていることがわかった ・ケアマネジャーの役割を知り、他の職種への関心が高まった ・講義で学習したことで現実がかみ合った ・認知症患者への自宅に近い環境づくりを今後の実習に活かしたい ・高齢者の地域医療の実情を知ることができた ・在宅での自由な医療選択は医療者と療養者が対等である ・高齢化が進んだ地域が抱える高齢者を支える医療や医療費の問題について学べた ・高齢化が進んだ地域が抱える医療問題に対応するため、地域包括ケアシステムの構築が重要 ・地域包括ケアで重要なのは「予防」と「自助」だ ・先進国では自助の意識が高いが、日本は自助への取り組みが弱い ・健康でいることが医療も介護も必要なくなる ・住民の自助を高めるためには保健師の活動が重要になる
	地域医療に魅力をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・都会がいいと思っていた自分にとっては、地域医療に驚きや魅力を感じた研修だった
	健康管理に関する意識の高まり	<ul style="list-style-type: none"> ・自助の必要性を学び、自分自身も健康意識を高めた ・何かあったときに安易に人に頼ればよいわけではない ・自己の健康意識を変えることができた ・何かあったときに安易に人に頼ろうとしていた自分に気づいた ・病気になっても誰かを頼ればよいという意識を変えることは大変であるが必要だ

表 3-2 研修 1 日目で印象に残ったことや考えたこと (2)

高山市の 保健・医 療・福祉の 取り組み	高齢者の状態に 応じた援助の 工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・高い高齢化率である飛騨地区だからこそ高齢者に対する看護やケアが発展している ・誤嚥の少ない介助方法として 0 度がよいことを学んだ ・地域で高齢者がその人らしい生活をするために、最期まで口から食べる取り組みは重要だ ・家族らの施設入所の希望が叶うよう、摂食の取り組みの体験学習や意見交換の場がある ・認知症の方への身体拘束の少なさから、患者の尊厳を守る意識の高さを感じた ・退院支援では自宅の様子を把握し細やかな対応が重要だ
	地域の実情に 応じた社会資源 の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市は課題のある地域だからこそ、さまざまな工夫から対策がうまれることを学んだ ・早期退院のために、自宅を中心とした生活環境の整備をすすめている ・超高齢社会に合わせた医療施設のあり方を学んだ
高山市の 保健・医 療・福祉の 課題	地域の実情と 課題 人手不足の現状 と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の看護師こそ地域の実情を知る必要がある ・地域によって訪問ができる限界があり地域差を知った ・働き手不足が続くと医療や介護サービスは行き詰まる ・日本では医療専門職らが健康管理を担うため、医療職の負担の増加や人手不足になる
地域包括 ケアシス テム	ICT の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の PHR について知り、日本への導入の必要性を学んだ ・ICT の活用（ウェアラブルデバイス）の必要性を学んだ ・海外と日本の ICT の活用差を知り、日本での普及も必要であることを学んだ ・日本の病院間で患者カルテを共有できる仕組みがあることを知った ・海外では PHR があり、適切な医療が提供できるとわかった ・マイナンバーカードの有用性を学んだ
	多機関・多職種と の連携・協働によ る地域包括ケア システム	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムでは、医療・介護・生活支援・介護予防のために多機関との連携が必要である ・効率のよい地域医療の展開のために、医療職種間や療養者、家族で連携を図る必要性を学んだ ・病院と地域の関係機関の連携は、訪問看護ステーション、特養、老健など多くの担当で調整されていることを学んだ ・地域包括ケアシステムの構築には、医療職同士の連携や地域住民の協力が不可欠だ ・日本の地域包括ケアシステムはまだ不十分である ・在宅での自由な医療選択のため、チーム医療が確立している必要がある ・地域包括ケアシステムの充実が高齢化対策の第一歩だと学んだ ・地域包括ケアシステムの目的は慢性疾患への効率的な対応である ・地域包括システムケアには医療介護支援といった介助や共助がある ・在宅支援の目的は慢性疾患の急性増悪の対応の効率化であると学んだ ・ケアマネジャーのさまざまな役割が在宅療養者の支援になることを学んだ
学生のキャ リア形成	将来への目標や 展望の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・将来は保健師として地域住民の健康の増進、疾病の予防に取り組みたい ・地域の特性を活かした質の高いケアのために、日々の研鑽が大切だ ・医療の現場は日々変化するため柔軟な視点をもつことが大切だ ・今日の学びを生かして自分の将来に役立てたい

表 4-1 研修 2 日目で印象に残ったことや考えたこと (1)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
研修の意義	研修による理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・知らなかったこともより深く知ることができた ・現状とか未来を見据えての講義内容でイメージしやすかった ・介護施設における現状や問題など知り知識をつけることができた ・延命希望をしていない人の救急車搬送は本人の意思と異なるため事前に話し合うことが重要である ・急変時は家族が混乱するため、事前に説明したり共に考えたりするなど、どのような選択をしたとしても家族の思いを受けとめて支えていく必要がある
	在宅での看取りに心動く	<ul style="list-style-type: none"> ・講話と映像から看取りに興味をもった ・看取りの映像に泣きそうになり感動した ・施設での看取りを知り肯定的に受け止めた
	在宅ケア・地域医療に魅力をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ケア、地域医療に対してとても熱心に取り組まれていて素晴らしい ・在宅医療の凄さを知った
高山市の保健・医療・福祉の取り組み	高山市の地域医療の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市の医療体制は進んでいる ・高山市は高度で質の高い医療の推進に向けて各医療機関と地域が連携し、ともに高山市の医療を築いていた
高山市の保健・医療・福祉の課題	人手不足の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護の人は増えているが介護士は人手不足である ・サービスを提供する側も、受ける側もつらい ・人手不足だけでなく事業所自体が少ないため高山地区全体の取り組みが必要である ・ユニット型は人材が確保できないため従来型も合わせるなどの体制作りが必要である ・人手不足はサービスの提供を困難し、その人が望む在宅生活を叶えることができなくなる ・全国的に医療職の人手不足が課題となっており高山市も例外ではない ・高山市の医療における取り組みを発信していくことで就職希望者が増える ・先進的な高山市の医療の現状を多くの人に知ってもらうことが高山の人材確保になる
	介護負担の大きい家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・特養の入所判定においては介護の大変さに同情して加点されることがあり、公平さが保たれないことがある ・認知症がある方の介護は負担が大きい
地域包括ケアシステム	多機関・多職種との連携・協働による地域包括ケアシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児への支援や前例のないことへの挑戦の際には市が助成するなど地域全体で取り組みをしている ・特別養護老人ホームと診療所が隣接しており、診察から看取りまで広く対応していた ・切れ目のない支援をできることが強みであるという話に印象が残った ・こうした支援ができるのは医師の理解と協力があるからこそである ・介護や医療などさまざまな分野の協力や連携によって実現しており、地域包括ケアシステムの体制づくりが進んでいる ・山間部で行ける時間にも限界があり十分なケアを提供するには困難もあるが、限りがあるなかでもより質の高いケアを目指し多職種間で連携している ・情報を有効に活用する
	地域の特性に応じた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を知ったうえで未来を予測し、今から体制づくりを行うことが大事である ・地域の特性や現状を理解しそれに応じた支援を考えなければならない

表 4-2 研修 2 日目で印象に残ったことや考えたこと (2)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
地域包括ケアシ テム	対象の望みや 思いを理解す る	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望や思いを聞くこと、本音を引き出していくことはとても大切なことである ・在宅で望む生活を送ることが目標となるため思いや望みを引き出し、受け止めることが大切である ・できるように取り組んでいくことが患者や家族のニーズを実現し幸せに暮らせる社会への実現につながる ・主観とか独りよがりではなく、思いを聞いたり尋ねて行動する ・支えるのではなく受け止めるということが印象に残った
学生のキ ャリア形 成	キャリア形成 に影響をうけ る	<ul style="list-style-type: none"> ・1 つの視点に捉われず多種多様な視点から自分のキャリアについて見つめたい ・人手不足で在宅支援が受けられない現状を知り、人手が足りないところに就職したい ・「看護師が諦めてはならない」という言葉が印象に残った

表 5-1 研修 1 週間後において研修に参加した現在の気持ちや考え (1)

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
研修の意 義	学修と研修の 結び付け	<ul style="list-style-type: none"> ・実習後に高山市に行くとさらに学びが深まる ・今回の研修で得られたものはこれから始まる実習や将来働くときに生かしていきたい ・インターンシップでの視点が、病院の診療科や機能の関心から病院と地域連携の視点になった
	高齢化が進む 高山市の先駆 的な地域医療	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の課題の先を見据えて乗り越え最先端を走る高山市が素敵と思った ・国全体が高齢化医療の先端を担っている高山市から学ぶ必要がある
	高山市の地域 医療の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護に興味はなかったが湧いた ・病院の特徴を知ることによってその病院の魅力を知ることができる ・看護教育では自宅で最期を迎えるのが 1 番と教えられたが、自宅でなく施設で最期を迎えることも良いとされた
	医療・介護への 姿勢の感銘	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市での医療と介護の取り組み (0 度横向き開発) の姿勢に驚いた ・拘束をしない、0 度食事介助などの工夫に驚いた ・最後まで経口摂取をしたい願いを叶える取り組みの実践はすばらしい
	地域医療の視 点の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で支え合っている姿に感銘を受け、さまざまな看護があることに視野が広がった ・看護や医療のほかに介護や福祉のことを学び視野がひろがった
高山市の 保健・医 療・福祉の 課題	高山市への医 療の遅れの先 入観	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部にある高山市は、医療が都会より遅れて十分に行き届いていないイメージをもっていた ・高山市は少子高齢化や過疎化で周囲と比べて医療技術が遅れているマイナスのイメージがあった
	少子高齢化が 進む高山市の 地域医療の魅 力と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で高山市は土地が広いが若者が少なく都心と比べて高齢化が進んでいることが印象に残った ・高齢化対策を示せることが高山市で働く魅力ではないか ・高齢化で医療を求める人が多い一方で提供する人が少なく、地域住民一人ひとりに合った支援がされていないと感じた ・高齢者が増えて医療従事者不足で必要な支援を受けられない人に対して、自分がその人たちのところへ出向いて医療を提供することでその人の QOL が上がると思った ・少子高齢化が進む高山市は都市部より高い医療技術を持ち、どこよりも早く対策を取っていたことを知りイメージが覆された

表 5-2 研修 1 週間後において研修に参加した現在の気持ちや考え(2)

地域包括 ケアシ テム	高山市の魅力 を引き出す地 域包括ケアシ ステム	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市は他の地域より地域包括ケアシステムの確立が進んでおり、地域と医療が密な関係となり多くの人に医療を提供していることにとっても魅力を感じた ・高山市は早期から地域包括ケアシステムの体制づくりに取り組んでいる話を聞き、高山の地域医療に魅力を感じた
	多機関多職種 連携と相互理 解で高め合う 地域包括ケア システム	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が病気になるためには医療職と行政、地域の人々との関係性が非常に大切で、地域包括ケアシステムの体制づくりが大切だと考えた ・医療職の連携が欠かせない今だからこそ互いの役割を理解して価値観を知ることが大切だし互いに高め合うことができると思った ・高山市は高度な医療に向けた開発が進んでおり、それに向けて医療職と地域が他職種と連携し合いながら取り組んでいることが素敵と感じた
学生のキ ャリア形 成	高山市への就 業の関心の高 まり	<ul style="list-style-type: none"> ・地元で働き続けることを考えていたが地元を離れて就職するのも良いと思った ・研修後は高山市で働くことに興味をもった ・高山市で働くことが将来の選択肢の 1 つに入れようと思うことができた ・キャリアを積んでいつか高山市の病院に携わりたい ・研修で高山市の病院や雰囲気非常に惹かれ興味が湧いた
	将来への目標 や展望の明確 化	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、保健師として病院だけでなく地域の人々の健康を支え、病気を治すだけでなく病気になるようにすることに貢献したい ・研修に参加して自分が住む地域以外にも目を向けて、保健師としての将来像を深く考えたい
研修への 要望	施設見学の要 望	<ul style="list-style-type: none"> ・座学のみで見学がなかったのは残念だった ・施設の見学がしたかった ・新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら施設見学もして楽しく高山市を知れる研修ができれば良い ・研修に実際の現場を見ることができたらよかった ・実際に少人数ずつで見学ができるとさらに高山市の医療現場を知ることができたと思う ・病院や施設に実際にいけなくて残念だった ・自分の目で見られれば楽しく、記憶にも残るだろう
	研修の魅力を 高めるための 要望	<ul style="list-style-type: none"> ・役職以外に若い方の話も聞きたかった ・看護学生だけでなくリハビリ職や医学生など医療職を目指す学生が集い、研修ができると素敵と思う

Ⅶ. 考察

1. 研修前オリエンテーション

学生は研修前に飛騨圏域の過疎化や高齢化に対する高山市の現状と施策について説明を受け、「医療職の人材不足が想定されるので、高山市は新卒看護師が来てもらいたいことが分かった」「飛騨の医療行政と看護大学の連携が必要だと分かった」と述べており、高山市の人材確保に大学連携が必要であることが理解できている。またそのためには「高校生の意識改革をどのように行うか」「高山出身の人が地元で働くことは良いことなので、早い段階から意識化してもらえようにしていくことが重要である」など、地域医療人材を育成するには、未来を担う高校生に対するアプローチすることが重要であることも考えられている。実際に高山市での就労を考えたとき、「就職先の奨学金などが心配」「奨学金制度についてよく分からないので知りたい」などの奨学金制度への関心や、「病院や施設についての情報が不足している」「高山市に移住して働くとなると不安も大きいので、そのサポートが必要になる」「人口比では看護師は充足されているので、求人倍率は高いのではないかと、就職が難しいのではないかと」など高山市への就労に関心を持つようになっている。高山市では若者地元就職

支援として、若者地元就職支援金¹⁰⁾・若者地元就職支援補助金¹¹⁾などU・I・Jターンだけでなく、高等学校などを卒業して、高山市内の事業所に地元就労した若者に対して支援金を支給している。今後これらの支援事業について学生に周知させることは、学生にとって高山での就労を検討するために有効であると考え。高齢化が進む地域医療の現状については、「飛騨のような広大な地域で過疎地を抱え、将来的な医療人材の不足が深刻な状況は理解した」などの理解を示し、「地域で働いている人から地域住民との関わりで大切にしていることや価値観について学びたい」「協立大学と協働した本研修のプロジェクト内容を聞き、今回の研修に臨む姿勢、思いが強くなった」など研修での学びに意欲を示すことができている。このように、研修前に飛騨圏域の過疎化・高齢化に対する高山市の現状と施策について事前に知識を提供したことは、研修への一層の興味・関心につながり、学生が目的をもって研修に参加できる内容であったと考える。

2. 現地研修での学び

今回の研修では、高山市の保健・医療・福祉分野のスペシャリストから、臨床の状況を踏まえた講義を受けた。スペシャリストから現場のリアリティな話を聞くことで、高山市の〔在宅医療・在宅ケアに魅力を持つ〕ことに繋がり、さらに「高齢者の地域医療の実情を知ることができた」など〔研修による理解の促進〕が図られたと考える。学生は研修を通して〔多機関・多職種との連携・協働による地域包括ケアシステム〕について最も多く学んでいた。地域包括ケアシステムにおいては、「地域の特性や現状を理解し、それに応じた支援を考えなければならない」など、〔地域の特性に応じた支援〕の必要性が理解できたと考える。山間部にある高山市は、過疎・高齢化が進み医療を必要とする人口に対して、医療従事者が不足しているという課題がある。多くの課題があるなかで、この地域で暮らす高齢者の健康と生活を支えるためのシステム「さまざまな機関や職種による連携・協働の実践」が見えやすかったと考える。また、医療従事者が不足している高山市では、地域医療においてICTを活用した遠隔診療や遠隔医療技術の導入をしているが¹²⁾、学生はICTを駆使して地域医療にあたる高山市の取り組みや遠隔診療の実際を大変興味深く聞いていた。ICT化が促進されている現代社会において、〔ICTの利活用〕の必要性を学ぶことができたことは、地域包括ケアシステムの発展を理解するうえで有益であったと考える。研修プログラムの中には、高山の人口動態や医療保健福祉事業の内容および特徴、具体的な援助についての説明があり、臥床したままでも「高齢者が最期まで口から食べられるような姿勢や食事内容への取り組み」や「認知症の方の尊厳を守るためにも身体拘束をしない実践」など〔高齢者の状態に応じた援助の工夫〕を学ぶことができた。しかし、さまざまな取り組みはされているが、地域差など〔地域の実情と課題〕を考えると、「過疎化・高齢化への対応としては十分ではない」との意見もあり、学生は高山市の〔人手不足の現状と課題〕を痛切に感じていたと考える。この意見は中川ら¹³⁾が述べるへき地で働く看護師が直面する看護上の問題の一つと同様であった。研修は講義ばかりでなく、尊い看取りの映像の視聴もあり、「講話と映像から看取りに興味をもった」や「看取りの映像に泣きそうになり感動した」など〔在宅での看取りに心動く〕学生が多くいた。このように、在宅医療・在宅ケアに関する知識や豊かな感性を養うことができたことから、本研修の価値は高いと考える。

3. 研修1週間後

へき地で働く看護師が直面する看護上の問題として中川ら¹⁴⁾は、地域特性に沿った看護実践への困難、高い質の医療確保が困難、マンパワー不足、他職種との連携における困難、学習活動の不足な

どを挙げており、これらの要因が福祉・医療従事者の就職を拒む要因になる。とりわけ、新人看護師は、卒後の学習ニーズとして「治療と処置」が最もニーズが高いことが明らかにされていることから¹⁵⁾、「少子高齢化や過疎化で周囲と比べて医療技術が遅れているマイナスイメージがあった」高山市に就職する意欲は芽生えにくいといえる。さらに、研修に参加した学生に「高山市への医療の遅れの先入観」があり、これが高山市へのU・Iターンを阻害する要因になっていると考える。しかし、上田ら¹⁶⁾は飛騨圏域において急性期医療密度指数が他県の過疎地域型医療圏と比較して高く、一定水準以上の医療レベルが確保されていることを示唆している。このことから、へき地医療は遅れているという偏見を払拭し、地域における正しい福祉・医療の状況や、強みに関する情報提供をすることが重要と考える。今回、学生は飛騨圏域で従事する管理者やエキスパートの方々から教授される研修を受講したことで「少子高齢化が進む高山市は都市部より高い医療技術をもち、どこよりも早く対策を取っていたことを知りイメージが覆された」経験ができ、[少子高齢化が進む高山市の地域医療の魅力と課題]を発見することができた。学生は[高山市の地域医療の魅力]を発見し、[高齢化が進む高山市の先駆的な地域医療]にある実態を知ることができたことで、[高山市への就業の関心の高まり]を実感し、[将来への目標や展望の明確化]を図ることができ、学生のU・Iターンのきっかけ作りとなる有意義な研修になったと考える。

今回の研修は、新型コロナウイルス感染症の感染予防を図るためにすべて座学で実施したが、多くの学生より[施設見学の要望]を認めた。黒野ら¹⁷⁾は、見学実習で学生の多くが座学で得た知識を確実なものにしたことを明らかにしていることから、今後は座学の他に福祉・医療の現場に出向き、現場の実際を見学することで飛騨圏域の地域医療の魅力をさらに高め、将来的にはU・Iターンへの契機づくりができると考える。

VIII. 結論

参加した学生は、研修前のオリエンテーションで【高山市の施策】【高山市の現状】を知り、【高山市研修への関心】を高めた。高山市における3日間の座学研修等においては、【高山市の保健・医療・福祉の取り組み】【高山市の保健・医療・福祉の課題】【地域包括ケアシステム】の現状を学び、【学生のキャリア形成】に影響を与え、[地域医療に魅力をもつ]などへき地の福祉・医療に関心が高めることができた。そのうえ研修1週間後では、高山市の[地域包括ケアシステム]の多くの魅力を感じ、[高山市への就業の関心の高まり][将来への目標や展望の明確化]を図りながら【学生のキャリア形成】ができ、将来の高山市へのU・Iターンへの動機づけを図ることができた。

IX. 結語

飛騨圏域は、将来的に概ね2人に1人が高齢者になるなかで、生産年齢人口の減少により看護師等の医療従事者不足が見込まれ、喫緊の課題となっている。今後、本学は飛騨圏域と連携して1人でも多くの学生が、飛騨圏域にU・Iターンに関心をもつことができるような地域貢献を果たしたい。

X. 謝辞

研修を実施するにあたり多大なご協力を賜りました飛騨高山大学連携センターの担当者様をはじめ

め、講義を快く引き受けて頂きました高山市内の施設担当者様、主体的に研修に参加し、調査にご協力を頂きました学生の皆様に心より感謝申し上げます。今回実施した研修は、飛騨高山大学連携センターの調査研究費を受けて実施したものである。本研究の一部は、第5回飛騨高山学会（岐阜県高山市）で発表した。

XI. 利益相反

本研究に開示すべき利益相反はない。

参考文献・引用文献

1. 厚生労働省 令和4年度厚生労働白書－社会保障を支える人材の確保, <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/21/dl/zentai.pdf> (閲覧 2023.10.14)
2. 岐阜県地域医療構想_第6章 飛騨圏域における地域医療構想, <https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/206706.pdf> (閲覧 2023.8.5)
3. 高山市の地域別高齢者等の状況 (2023.4.1現在), https://www.city.takayama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/000/564/koureishasu_koureikaritu_r5.4.pdf (閲覧 2023.12.30)
4. 国立社会保障・人口問題研究所_全都道府県・市区町村別の男女・年齢(5歳)階級別の推計結果(一覧表), https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.ipss.go.jp%2Fpp-shicyoson%2F%2Fshicyoson23%2F3kekka%2Fsuikei_kekka.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK (閲覧 2024.1.21)
5. 前掲4.
6. 厚生労働省 在宅医療・介護推進プロジェクトチーム, https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/zaitaku/dl/zaitakuiryuu_all.pdf (閲覧 2024.1.21)
7. 文部科学省 大学への進学者数の将来推計について, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryu/_icsFiles/afieldfile/2018/03/08/1401754_03.pdf (閲覧 2024.1.5)
8. 岐阜協立大学学生数, https://www.gku.ac.jp/about/information/doc/2023_students.pdf (閲覧 2024.1.21)
9. 岐阜県地域医療構想_序章 地域医療構想の概要, <https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/206699.pdf> (閲覧 2024.1.21)
10. 高山市 若者地元就職支援金, <https://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1000067/1002790/1005775/1018073/index.html> (閲覧 2024.1.21)
11. 高山市 若者地元就職支援補助金, <https://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1000067/1002790/1002803/1018077.html> (閲覧 2024.1.21)
12. 高山市 地域の医療体制を守るために <https://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000016/1000092/1019023.html> (閲覧 2024.1.21)
13. 中川早紀子, 高瀬美由紀: 日本におけるへき地で働く看護師が直面する看護上の問題, 日本看護研究学会雑誌, 39(4), 105-113, 2016年.
14. 前掲13.

15. 宮村啓子, 林智子, 井村香積: 「新人看護師の学習ニーズ」に対する新人看護師と指導看護師の捉え方の比較, 31(1), 15-28, 2021年.
16. 上田規江, 竹内浩視, 尾島俊之: 東海地方4県における医療・介護需給状況の地域間比較, 東海公衆衛生雑誌, 10(1), 150-159, 2022年.
17. 黒野伸子, 酒井一由: 病院見学実習の効果と将来性 メディカルプロフェッショナルへの第一歩, 日本医療秘書学会学会誌, 7(1), 53-55, 2010年.